

銀漢亭日録



伊藤伊那男

の龍正君を桜新町のサッカー教室へバスで送る。終わるまでをジョリ・パスタにて待つ。海胆のパスタがうまい！ ワイン。帰宅して改めて夕食。いただきものの柿の葉寿司。

25日(火) ▼「萩句会」選句。あと、清瀬さん階段を踏み外し、救急車で病院に入ったと。店「関句会」七人。あと「ひまわり句会」九人。

26日(水) ▼店「雛句会」十二人。菊田一平さん久々。大西朋さん他と。高橋小花さん。

27日(木) ▼予約無く閑散。大塚凱君。事業部「御岳山鍛練句会」の案内発送など。

28日(金) ▼大型台風接近というが、今日の東京は秋晴れ。隣家からせり出している金木犀の大樹。窓を開けると甘い香りが充滿。店、親戚の五日市さん会社仲間六人。あと「金星句会」あと七人。水内慶太さん「すし屋の弥助」の鯖寿司土産に。清水先生(会員) 気仙沼の牡蠣の老先生、畠山重篤さんと。編集者の小鮎由起子さんも。

29日(土) ▼あ・ん・ど・うクリニック、銀行、本屋、スーパーマーケット。喫茶店で選句や連絡。莉子、華子にステーキ焼く。

30日(日) ▼終日家。午後、杏さん一家来て食事会。宮澤は能登。ロイルキャベツ、秋刀魚味噌漬、焼茄子など作る。火鍋など。台風接近にて杏一家早々に帰る。夜中、恐ろしいほどの風雨。

10月1日(月) ▼台風一過。店、久々、対馬康子さん私の句集出版祝いにヴーヴクリコで乾杯して下さる。梅田津さんの勉強会。水内慶太さんがゲストで五人。「かさ、ぎ俳句勉強会」あと十人。白井飛露さん本日誕生日と来店。清人さん、慶太さんから各々ヴーヴクリコの乾杯。

2日(火) ▼店、超閑散。

3日(水) ▼「きさらぎ句会」あと六人。「宙句会」あと十人。隣家

9月20日(木) ▼「銀漢句会」、今日は麴町会館にて、てる緒さん句

稿受け渡しで往き来してくれる。須賀川の高橋双葉さんと宮内孝子さん来店。宮内さん久々、お元気！ 双葉さん、出羽以来か。妹さんも一緒。武田禪次さん、三菱商事時代の仲間と。面白い方々。

21日(金) ▼発行所「薦句会」選句。あと八人店。パリ在住の銀漢会員、伊藤恵子さん来店。

22日(土) ▼彗星集書き上げる。十二月号のエッセイ書く。十四時、日本橋「鯨の与志喜」で「纏句会」。月野ぼなさんゲストで十三人。あと、題に出た秋刀魚の塩焼き。蕎麦の実と根菜の椀。鯛と椎茸のあんかけ、握りひととおり。酒は日高見。今日は十句全部開き、特選も六。嬉しい！ 帰宅してロイルキャベツ、秋刀魚の酢締めなどの夕食用意。家族揃う。というか私がいれば揃う。

23日(日) ▼十四時、南千住駅。井蛙、光注さんとの伊那北会。誕生日の芙紗、展枝、いづみ、小石さん。回向院、首切地藏、素盞鳴尊神社、芭蕉矢立て始めの千住大橋。円通寺。吉原大門前の馬肉料理の中江にて刺身、鍋、煮込み、汁かけごはん。吉原を抜けて浅草へ。ニュー浅草にて三句出し句会。そしてカラオケと……。

24日(月) ▼振替休日。昨日の昼からの酒が残る。誰も使わなかったロデオの健康器具が家にあり、四ヶ月前から私の部屋に引き取ってほぼ毎日乗っているのだが、全く体重が減ることもなく、むしろお腹が出て来ている。それでもいつの日か効果が出るのではないかと「ロシナンテ」と名付けて乗っている。家族皆、出払っており、孫

に庭師が入り、恐るべき勢いで切りまくり金木犀は丸裸。

4日(木) ▼「十六夜句会」あと九人。村上(今泉)礼奈、会社仲間と久々、三月に出産の運びと！ お目出度う。村上頼彦さんは幸せ者である。皆川文弘さん、富山のチューリップの球根持ってきて下さる。

5日(金) ▼春耕賞選句。五十編あり。月初の暇な時に済ませておくことに。店、法政大学の高柳先生五人。「大倉句会」あと二十人。

6日(土) ▼新宿発の奥多摩号で御嶽駅。バス、ケーブルカーで山頂のビクターセンター集合十一時半。参加者三十三名。ガイドの馬場さんの案内で、宿の御岳山荘まで動物や植物の話聞く。持参の駅弁の昼食。十三時より十句出し句会。休憩時間に参道の店。閉まるころだったのが、私の顔を覚えて入れてくれる。蒟蒻刺、田楽などで酒。五人ほどで。十八時夕食。いつもながら実に心の籠った料理の数々。二十時半より第二回の十句出し句会。二十三時位で終了であったが、あと私の部屋に七、八人集まり軽く飲む。熟睡。

7日(日) ▼昨日も今日も快晴。五時半に起きて作句、作句。七時、武蔵御嶽神社に集合し、朝の祈禱を受ける。気さくな御神職。八時朝食。九時より第三回目の十句出し句会。NHKのど自慢大会の会場が私の郷里駒ヶ根市とて、冒頭の会場紹介を見る。昼食後、解散。下山して、二十人ほどが玉川屋へ。澤乃井の酒、酒！ あと蕎麦。そのあと二十分程歩いて澤乃井園清流ガーデンへ。酒！ 澤乃井の酒。日没まで。くたくたで帰宅。

8日(月) ▼体育の日。十一月号の校正。雑用などこなす。作句。夜、能登のぼうが来ていたので、豚肉、豆腐などで味噌鍋に。秋刀魚の酢締め、御岳山の蒟蒻の刺身など。

9日(火) ▼伊那谷の友人、田中昇さん寄ってくれる。伊那の松茸の

土産。「火の会」九人。御岳山土産の刺身蒟蒻、秋刀魚の味噌漬など喜んで下さる。成績良し。

10日(水) ▼鈴木てる緒さん、パニラと。久々に会う。予約なし。屋内松山さん。「軸」の鳥さん二人。水内慶太、加茂一行、祐森水香さん。帰宅して桃子と少し話。

11日(木) ▼「極句会」あと十二人。九日から店の壁面での「写真とコトノハ展」(倉田有希さん代表) 開催中。影山風子さんを偲ぶ冊子に寄稿、献句(佳き風の吹き月影は山の端に)。毎日新聞「俳句αあるふあ」増刊号特集に短文。土日の「雲の峰絵会」に小講演をする資料作成。酒井多加子さんに送る。

12日(金) ▼店、コトノハ写真展の親睦会十人。(広渡敬雄・松野苑子・望月周と思えば、角川賞受賞者が三人いる)。「櫟」の種谷さん、その他賑わう。

13日(土) ▼十時、運営委員会。午後、麴町会館にて「銀漢本部句会」。五十人とやや少ない。若手の活躍に皆刺激を受ける。あと中華店にて親睦会十六人。

14日(日) ▼十一時発、あずさ号にて信州へ。岡谷駅にて、大住光注、堀部泰憲、清水実君と合流し、飯田線にて伊那市駅。大野田井蛙さんの出迎えを受け、天台宗の名刹羽広観音。住職夫人が小学校同期生にて挨拶。松の手入れをしている方がいて、三方に張った綱で梯子を立て、驚くほどの高さに登っているので感心し、歳を聞くと八十七歳と。絶句する。ところが、一年前、脚立から落ちて脊椎損傷し、リハビリ中と。この松手入れがリハビリと言うので更に驚く。信州大学農学部のカンパス、伊那北高校などを散策し、本日の会場、大芝荘へ。約百人の集い。スケートの小平奈緒を育てた新谷純夫君の講演を聞き、宴会、二次会……と続く。